

# 郊家平古墳群第 2 次発掘調査報告書

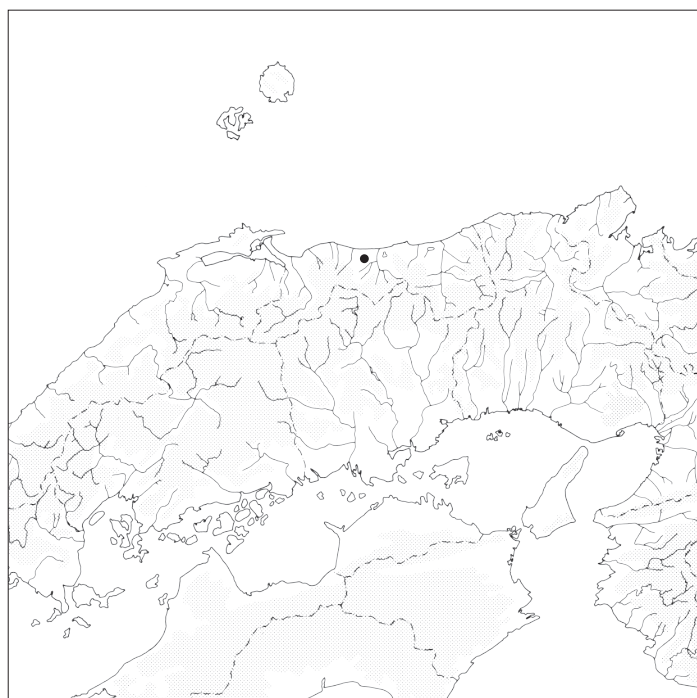
灘手工業団地下段駐車場進入路設置工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

令和 5 年度

倉吉市教育委員会

こうげひら  
郊家平古墳群第2次発掘調査報告書

灘手工業団地下段駐車場進入路設置工事に伴う埋蔵文化財発掘調査



遺跡略号 4ETK・2

令和5年度

倉吉市教育委員会



# 序

この報告書は、灘手工業団地下段駐車場進入路設置に伴い、令和4年度に鳥取県倉吉市谷字郊家平において行った、埋蔵文化財の発掘調査記録です。

今回の発掘調査では、古墳時代の箱式石棺墓2基を確認しました。

この報告書が地域の歴史の解明、あるいは教育・研究の一資料として、また文化財の理解・活用のためお役に立てば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査に際し多大なご協力をいただきました株式会社モリタ製作所、ならびに関係機関各位に深く感謝の意を表する次第です。

令和6年2月

倉吉市教育委員会

教育長 小椋 博幸

## 例 言

1 本報告書は、灘手工業団地下段駐車場進入路設置に伴う事前調査として、令和4年度に倉吉市教育委員会が株式会社モリタ製作所から委託を受け、鳥取県倉吉市谷字郊家平において実施した埋蔵文化財発掘調査の記録である。

2 調査組織は次のとおりである。

調査主体 倉吉市教育委員会

事務局 倉吉市教育委員会事務局文化財課

小椋 博幸（教育長）	種子 真一（事務局長 4年度）
石賀 大生（事務局長 5年度）	藤井 貴男（文化財課課長）
岡本 智則（文化財課課長補佐兼文化財保護係係長）	箕田 拓郎（文化財保護係主任学芸員）
田中 貴志（文化財保護係主任 4年2月から）	西村 和恵（文化財保護係主任 4年度）
西本 愛（文化財保護係主任 5年度）	
加藤 誠司（埋蔵文化財係係長）	谷口 礼（埋蔵文化財係主任）
小田 芳弘（埋蔵文化財係主任学芸員）	片岡 啓介（埋蔵文化財係主任学芸員）
西浦 千賀（埋蔵文化財係学芸員）	橋本 有正（埋蔵文化財係学芸員）
進木 和美（発掘調査補助員）	川本 晶子（事務員）
松原 雄二（建築技師）	

内務整理 秋元葉子・足羽由里香・谷口公也・徳田郁美（4年度）・山根孝（4年度）・山松紀文（4年度）

3 現地調査は西浦・橋本が担当し、進木の補助を受けた。本書の執筆は西浦・橋本が行い、文末に文責を記した。

4 第1図は、国土地理院発行の1：50,000地形図「倉吉」の一部に加筆したものである。第2図は平成29年修正測量の1：2,500国土基本図を元に加筆したものである。

5 挿図中の方位及び座標値は国土座標第Ⅴ座標系（世界測地系）の北を指す。

6 調査によって得られた資料は、倉吉市教育委員会が保管している。

## 本文目次

I 発掘調査に至る経過 .....	1
II 位置と歴史的環境 .....	1
III 調査の概要 .....	4
IV まとめ .....	7
報告書抄録	

## 挿図目次

第1図 倉吉市周辺の地形と遺跡分布図 .....	2
第2図 調査区位置図 .....	3
第3図 郊家平古墳群第2次調査遺構全体図 .....	4
第4図 1号埋葬施設遺構図 .....	5
第5図 2号埋葬施設遺構図 .....	6
第6図 郊家平古墳群試掘・確認調査トレンチ配置図 .....	7

## 図版目次

図版1 調査前全景・調査後全景	
図版2 1号埋葬施設石棺・1号埋葬施設完掘	
図版3 2号埋葬施設検出・2号埋葬施設石棺・2号埋葬施設完掘	



## I 発掘調査に至る経過

令和4年5月、倉吉市商工観光課（現しごと定住促進課）を通じて株式会社モリタ製作所から倉吉市教育委員会文化財課へ、灘手工業団地下段駐車場進入路設置の計画が示された。開発予定地及びその周辺には全長約30mの前方後円墳を含む古墳11基が確認されている郊家平古墳群が所在する。このうち、開発予定地から南西に80m離れた1～3号墳では昭和62年度<sup>1)</sup>に道路改良工事に伴い発掘調査が実施されている。また、平成24年5月<sup>2)</sup>、平成25年12月<sup>3)</sup>、平成27年3月<sup>4)</sup>にも道路新設工事及び工業用地造成工事に伴い試掘・確認調査が実施され、古墳の周溝及び埋葬施設が確認されている。

このため、倉吉市教育委員会が開発予定地において令和4年7月<sup>5)</sup>に試掘・確認調査を実施した。その結果、5号墳以外の遺構を確認できず、遺物の出土量もわずかであった。このため、株式会社モリタ製作所と協議し、遺構に影響のない計画を採用し、掘削する範囲の工事立会を実施することになった。令和4年12月20日に工事立会を実施したところ、埋葬施設2基を確認した。これを受け、工事を中断し、発掘調査を実施した。調査は株式会社モリタ製作所から倉吉市が委託を受け、倉吉市教育委員会が実施した。現地調査は令和5年1月11日から令和5年1月31日まで、調査面積は180㎡である。（西浦）

参考文献

- 1) 根鈴輝雄『郊家平古墳群発掘調査報告書』倉吉市文化財報告書第46集、倉吉市教育委員会 1988年
- 2) 岡平拓也「10 谷地区（郊家平古墳群）」『倉吉市内遺跡分布調査報告書17』倉吉市文化財報告書第142集、倉吉市教育委員会 2013年
- 3) 岡平拓也「5 谷郊家平地区（郊家平古墳群）」『倉吉市内遺跡分布調査報告書18』倉吉市文化財報告書第144集、倉吉市教育委員会 2015年
- 4) 箕田拓郎「1 谷地区（郊家平4号墳）」『倉吉市内遺跡分布調査報告書19』倉吉市文化財報告書第152集、倉吉市教育委員会 2017年
- 5) 西浦千賀「16 谷地区（郊家平古墳群）」『倉吉市内遺跡分布調査報告書22』倉吉市文化財報告書第162集、倉吉市教育委員会 2023年

## II 位置と歴史的環境

郊家平古墳群は、倉吉市街地から北西に約7.5km離れた倉吉市谷字郊家平に所在する。周辺は大山の火山活動により形成された丘陵が南北に延び、小規模な谷が樹枝状に入り組んでいる。調査地は南西から北東に伸びる丘陵裾部に位置し、水田面との比高差は約2mである。

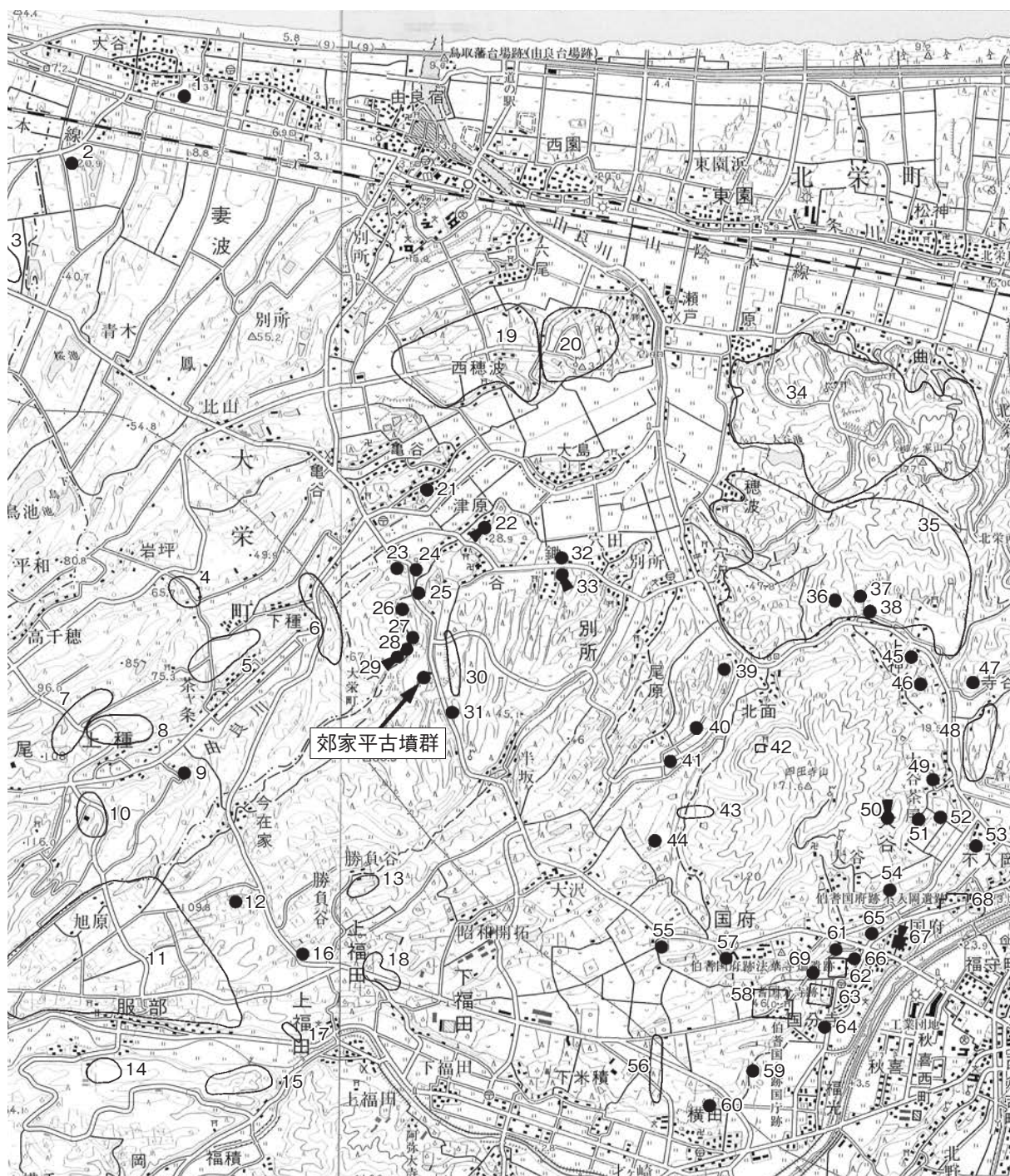
当古墳群の周辺には多くの遺跡が分布する。以下、第1図の範囲を中心に、縄文時代から奈良時代の周辺の歴史的環境を述べる。

縄文時代の遺跡としては、早期の竪穴建物と焼石群、押型文土器を確認している取木遺跡（40）や159基の落とし穴が確認されている中尾遺跡（54）が知られている。弥生時代になると集落としては中期から後期にかけての高原遺跡、弥生時代後期のコザンコウ遺跡、両長谷遺跡（44）、弥生時代前期から古墳時代にかけての中尾遺跡、後期から古墳時代にかけての大仙峯遺跡、道祖神峰遺跡などが調査されている。墳墓では前期の土壇墓・木棺墓を検出したイキス遺跡（39）や後期の土壇墓群を確認した二タ子塚遺跡（28）の他、大谷後口谷墳丘墓群・三度舞墳丘墓などが知られる。

古墳時代になると、丘陵上に多くの古墳が造られた。当古墳群の北西約250mの丘陵尾根上にある二タ子塚遺跡では古墳時代前期の方墳が5基確認されている。二タ子塚遺跡に隣接する駄道東遺跡（27）では円墳9基と方墳1基が確認されており、同じ丘陵尾根上には前方部と後円部に1基ずつの横穴式石室を持つ前方後円墳である二タ子塚6号墳（29）が所在する。谷を挟んだ東側の丘陵上には古墳時代後期の古墳11基と住居跡が確認された頭根後谷遺跡（30）があり蛇行鉄剣が出土している。その他、曲古墳群（34）や、瀬戸古墳群（20）、西穂波古墳群（19）、箱式石棺を主体とする高鼻2号墳（33）、取木遺跡（40）、一反半田遺跡（41）などが調査されている。

奈良時代には久米ヶ原丘陵東端部周辺に伯耆国庁跡（58）、伯耆国分寺跡（63）、大規模な官衙がのちに国分尼寺として利用された法華寺畑遺跡（62）が近接して設けられた。さらに不入岡遺跡（68）では、7世紀後半から10世紀代の遺構として多くの掘立柱建物が確認されており8世紀前半に伯耆国庁の先行する官衙として造られ、8世紀後半以降10世紀までは伯耆国管轄の倉庫群が立ち並んでいたと考えられる。（西浦）





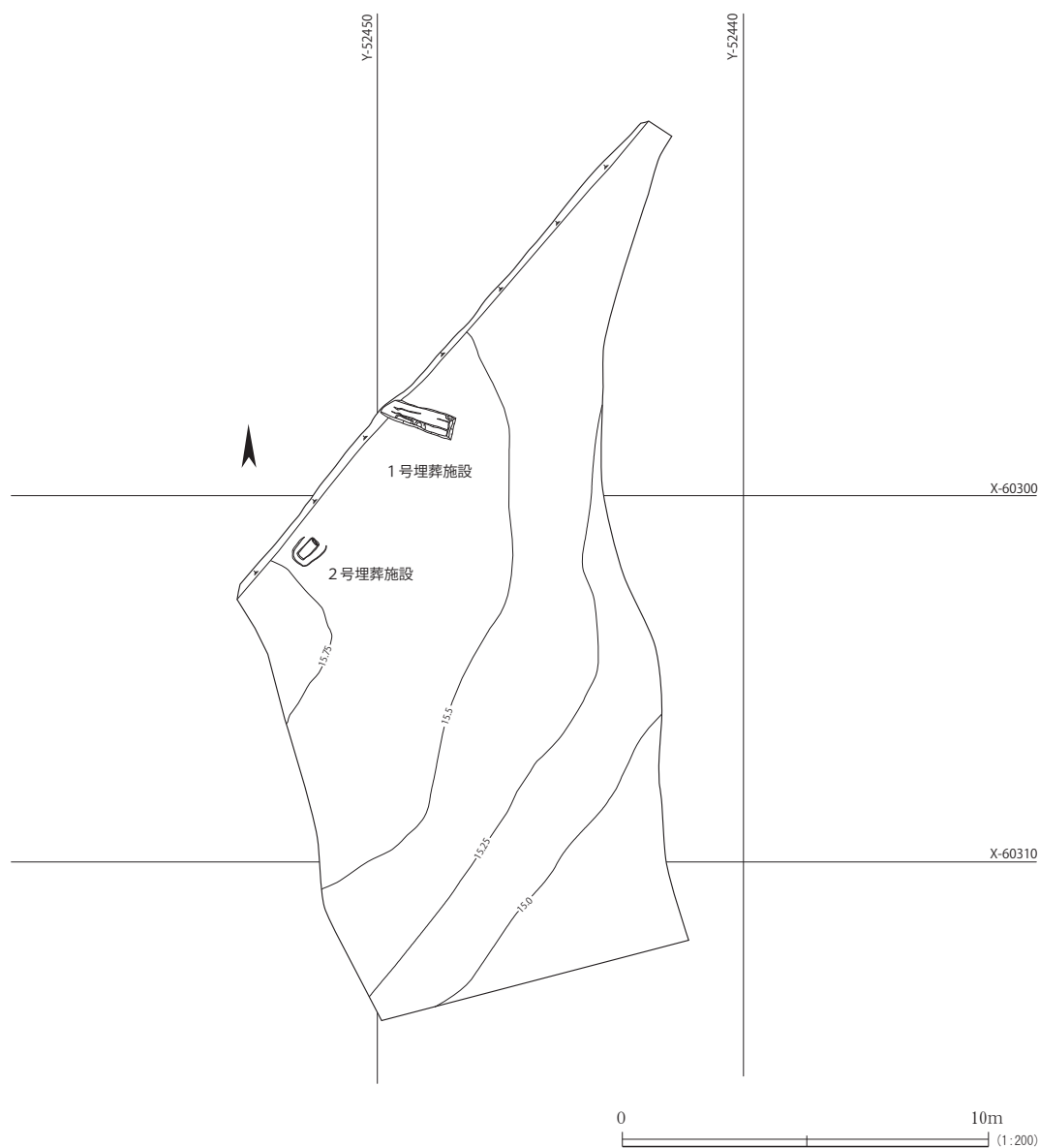
第1図 倉吉市周辺の地形と遺跡分布図

(1:50,000)

- |            |            |            |            |                   |
|------------|------------|------------|------------|-------------------|
| 1 大谷1・2号墳  | 15 並塚古墳群   | 29 ニタ子塚6号墳 | 43 野田古墳群   | 57 向野遺跡           |
| 2 大谷3号墳    | 16 雨堤遺跡    | 30 頭根後谷遺跡  | 44 両長谷遺跡   | 58 伯耆国庁跡          |
| 3 槻下古墳群    | 17 観音堂遺跡   | 31 東鳥ヶ尾古墳  | 45 東狭間古墳   | 59 嶋ノ掛遺跡          |
| 4 野田古墳群    | 18 稚児ヶ墓古墳群 | 32 高鼻1号墳   | 46 猫山遺跡    | 60 矢戸遺跡           |
| 5 下種古墳群    | 19 西穂波古墳群  | 33 高鼻2号墳   | 47 西前遺跡    | 61 伯耆国府関連遺跡 古神宮地区 |
| 6 下種東古墳群   | 20 瀬戸古墳群   | 34 曲古墳群    | 48 屋喜山古墳群  | 62 伯耆国府跡法華寺畑遺跡    |
| 7 上種西古墳群   | 21 東亀谷古墳群  | 35 上神古墳群   | 49 イザ原遺跡   | 63 伯耆国分寺跡         |
| 8 上種中央古墳群  | 22 大塚山古墳   | 36 クズマ遺跡   | 50 大谷大將塚古墳 | 64 河原毛田遺跡         |
| 9 加茂山古墳    | 23 西焼ス遺跡   | 37 西山遺跡    | 51 小林古墳群   | 65 擲塚遺跡           |
| 10 上種東古墳群  | 24 下焼ス遺跡   | 38 桜木遺跡    | 52 イザ原古墳群  | 66 宮ノ下遺跡          |
| 11 服部古墳群   | 25 清水谷尻3号墳 | 39 イキス遺跡   | 53 沢バリ遺跡   | 67 国分寺古墳          |
| 12 鶏塚古墳群   | 26 清水谷古墳群  | 40 取木遺跡    | 54 中尾遺跡    | 68 伯耆国府跡不入岡遺跡     |
| 13 ケンカ塚古墳群 | 27 駄道東遺跡   | 41 一反半田遺跡  | 55 中峯遺跡    | 69 国分寺北遺跡         |
| 14 牛王野北古墳群 | 28 ニタ子塚遺跡  | 42 四王寺跡    | 56 福田寺遺跡   |                   |







第3図 郊家平古墳群第2次調査遺構全体図

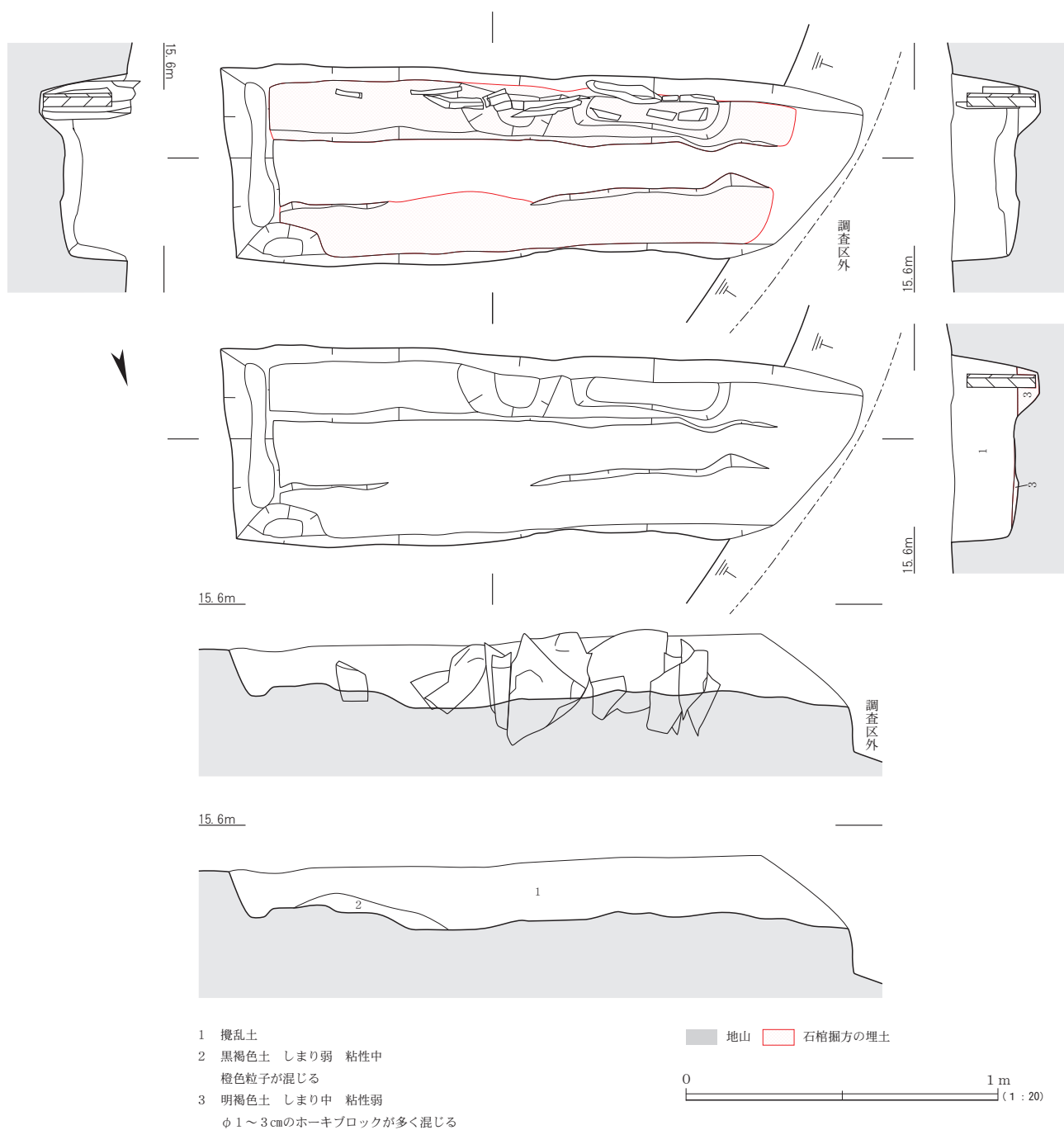
### Ⅲ 調査の概要

調査地は丘陵裾部に所在し、元は畑地、宅地に利用されていた。

調査地の基本層序は上層から真砂土、茶褐色土、褐色土（ソフトローム層）、黄灰色砂質土（ホーキ火山灰層）である。遺構検出は黄灰色砂質土（ホーキ火山灰層）上面で行った。調査区北側、標高 15.5 ～ 15.75 m の位置で遺構が確認された。検出した遺構は埋葬施設 2 基である。遺物は出土しなかった。

#### 1 号埋葬施設

調査区北側に位置する箱式石棺墓である。主軸はN－75°－W。西小口側は過去の造成によって失われていた。墓壇は長方形を呈し、確認できた規模は長さ 2.06 m、幅は東側が 0.66 m、西側が 0.58 m、深さは 0.2 m である。床面には東小口側と南側石側の一部に石棺材の据付穴と、両側石側に幅 0.16 ～ 0.22 m、深さ 0.02 m の石棺材を据える浅い溝が掘られ、両側石側には棺床の高さにあわせて明褐色土を充填し石棺材を固定していた。石棺材はほとんどが抜きとられており、南側石 8 枚が遺存していた。石棺材は板状剥離する安山岩で、石棺規模はいずれも内法、推定で長さ 1.9 m 以上、幅 0.3 m である。墓壇の幅から頭位は東側と推定される。遺物は出土しなかった。（西浦）



第4図 1号埋葬施設遺構図

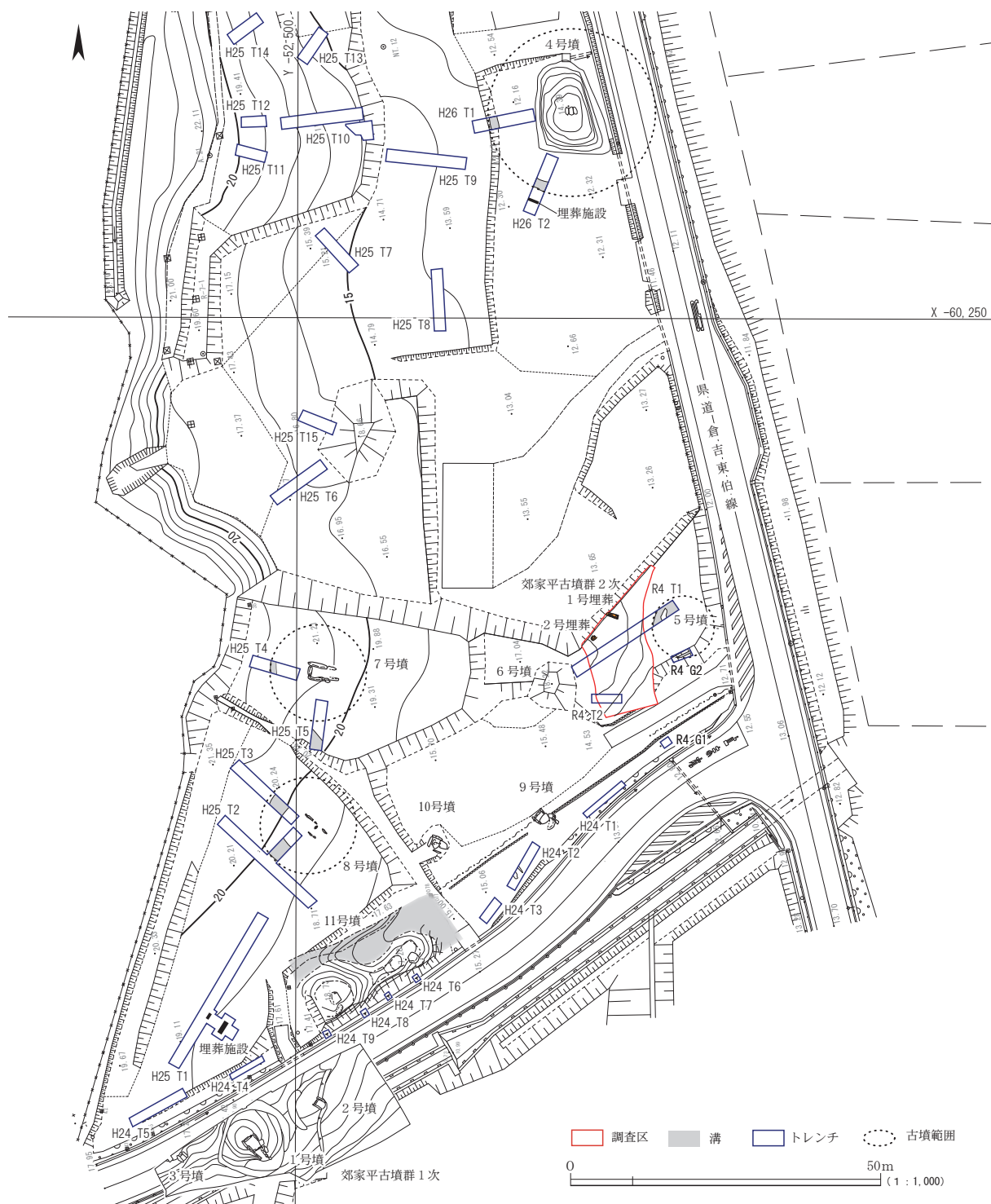
## 2号埋葬施設

1号埋葬施設から南西に2m離れた場所に位置する箱式石棺墓である。主軸はN-44°-E。墓壇は二段掘りで、上下段の平面形は隅丸長方形を呈する。確認できた規模は上段が長さ0.89m、幅は北東側が0.68m、南西側が0.59m、深さは0.04m、石棺を納める下段が長さ0.65m、幅は北東側が0.3m、南西側が0.26m、深さは0.25mである。墓壇底面には南西小口に石棺材の据付穴がある。蓋石は、大小の平石が3枚重なっていた。石棺は、北東と南西に小口石を1枚ずつ、北西と南東に側石を1枚ずつで構成される。石棺規模は、内法で長さ0.54m、幅は北東小口側で0.23m、南西小口側で0.22mと北東小口側が広く、側石上面から棺床までの深さは0.17mを測る。石棺は、両小口石が両側石を挟み込むように組み合わせられる。棺床には整地した後には大小の板石が2枚敷かれている。北東小口側で棺床の板石の上に板石が1枚置かれており、枕石と想定されることから、頭位は北東側と推定される。副葬品は出土しなかった。

(橋本)







第6図 郊家平古墳群試掘・確認調査トレンチ配置図

## IV まとめ

今回の調査では埋葬施設（箱式石棺墓）を2基確認した。1号埋葬施設は、墳丘が削平されている5号墳（直径約10mの円墳）の周溝から西に約5m離れて位置し<sup>1)</sup>、2号埋葬施設は墳丘の一部が遺存している6号墳から北東に約5m離れて位置する。2基の箱式石棺墓に伴う墳丘や周溝が検出されていないことと、周辺に11号墳（全長約30mの前方後円墳）を含む古墳が11基密集していることから、古墳に伴う埋葬施設と推定される。ただし、2基の箱式石棺墓からは、遺構に伴う遺物が出土していないため、詳細な時期は不明である。

これまで郊家平古墳群の主体部以外の埋葬施設については、4号墳の周溝外で箱式石棺墓を1基確認し<sup>2)</sup>、また11号墳から西へ10m離れた位置で石蓋土壙墓を2基確認している<sup>3)</sup>。今回の発掘調査で、郊家平古墳群で確認された主体部以外の埋葬施設は5基となり、古墳に伴う埋葬施設についての新たな資料を得ることができた。

以上、調査によって明らかになった点を述べた。今回の調査範囲は郊家平古墳群の一部に限られており、今後の調査の進展を待ちたい。

(橋本)

#### 参考文献

- 1) 西浦千賀「16 谷地区(郊家平古墳群)」『倉吉市内遺跡分布調査報告書22』倉吉市文化財報告書第162集、倉吉市教育委員会 2023年
- 2) 箕田拓郎「1 谷地区(郊家平4号墳)」『倉吉市内遺跡分布調査報告書19』倉吉市文化財報告書第152集、倉吉市教育委員会 2017年
- 3) 岡平拓也「5 谷郊家平地区(郊家平古墳群)」『倉吉市内遺跡分布調査報告書18』倉吉市文化財報告書第144集、倉吉市教育委員会 2015年





調査前全景（南から）



調査後全景（北東から）右奥にある高まりが6号墳





1号埋葬施設石棺（北西から）



1号埋葬施設完掘（北西から）



2号埋葬施設検出（南西から）



2号埋葬施設石棺（南西から）



2号埋葬施設完掘（南西から）

## 報告書抄録

書 名	郷家平古墳群第2次発掘調査報告書						
副 書 名	灘手工業団地下段駐車場進入路設置工事に伴う埋蔵文化財発掘調査						
巻 次	一						
シ リ ーズ 名	倉吉市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第163集						
編 著 者 名	西浦 千賀・橋本 有正						
編 集 機 関	倉吉市教育委員会						
所 在 地	〒682-8611 鳥取県倉吉市葵町722番地 TEL 0858-22-4419						
発 行 年 月 日	西暦2024年2月20日						
所 収 遺 跡 名	所 在 地	コ ー ド	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村：遺跡記号					
郷家平古墳群	倉吉市谷字郷家平	31203：4ETK・2	35° 27′ 18″	133° 45′ 20″	20230110～20230131	180㎡	記録保存調査
所 収 遺 跡 名	種別	主な時代：主な遺構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
郷家平古墳群	古墳	古墳 ：埋葬施設2		なし			
要 約	古墳時代の箱式石棺墓2基を確認した。						

---

## 郊家平古墳群第2次発掘調査報告書

発 行 令和6年2月20日

編 集 倉吉市教育委員会

〒682-8611 鳥取県倉吉市葵町722

TEL 0858-22-4419

発行者 倉吉市教育委員会

印 刷 勝美印刷株式会社

---

